
塞ぐ

河衣小牧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

塞ぐ

【Nコード】

N4397F

【作者名】

河衣小牧

【あらすじ】

気付いても、言うてはいけない想い。求めるだけ、心は傷を広げるから。

いつまでも、こうしていられるだなんて、思っただけ。

「ねーっ。一緒に帰ろう？」

「ごめん。ちょっと　に相談があるから。先に帰ってきてくれる？」

うん、知ってた。

知ってても、言わずにはいらなかった。

「……了解っ。それじゃ、また明日。」

「あっ……、」

何か言おうとした君。

でも、気づかないフリ。

良いでしょう？もう少し逃げて、今は。

何回目だろう。君からこうして逃げるのは。

始まりは、もうずっと前で、君が君の気持ちに気付いてしまっただけ。

あれから、君はあの人ばかり心配することが増えた。周りから見れば、なんてことはない、当たり前前の光景。

でも、分かってしまったから。それが特別な感情を孕んでいることに。

だって、気付いていたから。君が知るよりもずっと、ずっと前から。知らずしらず、君の全てを目で追っていた。何をするにも、君が気にかかった。いつでも、君の存在を近くに感じていたくて。

話をすれば嬉しくて、触れられたらどきどきして。君に通じる感情の全てが愛おしかった。

だから。

だからこそ、真っ先に気付いてしまった。

君の視界にいつも存在する人。

それは当然私ではなく、私の位置みせから、とても良く観ることが出来た。

3

私では敵わない。

それを知ったとき、浮かんだのは、嫉妬も、それを伴う痛みすらこえる『安堵』。

もう、

2人のことで悩んだり、

無駄な希望を期待したり。

全部を理解って《わかって》いることに、罪悪感を感じることも無い。

君が、言いたい言葉の先は、もうとっくに見えているから。

だから、言わなくても良いのに。

酷い人。

無知な人。

優しくて、

その優しさ故に締め付けられる。

それを知らない君。

だから、私が耳を塞ごう。

2人の言葉が聞こえない様に。

君がその声を消さなくて済むように。

柔らかく塞がれたのは、
感情の掃け口。

この想いごとく、閉じてしまおう。

未練がましく縋る指先。
触れられない背中。

塞ぐのは

昨日の記憶。

(後書き)

小牧です。今回は初挑戦の悲恋ものです。詩的要素が強く、私情入りまくりで申し訳ないです……。初めての試みなので、感想を頂けると有り難いです。お読み頂きありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4397f/>

塞ぐ

2010年12月12日02時28分発行